



今月の一枚

隣寺ニヶ寺を導師に迎えて老院の七日参り (6月20日順慶寺本堂にて、岡川経康氏撮影)

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2020年(令和2年)

7月号

VOL.321

◆◆ あいじょうこう 相焼香 ◆◆

寺族の葬儀や法事の導師は、誰が執行するのか。これを疑問に思う方も多いが、基本的に相焼香という制度があり、相互に焼香をしあう寺が決めてある場合が多い。順慶寺においては、同じ町内にある真宗寺院のニヶ寺が相焼香となり、相互に導師を勤める。

◆ 閻魔さまはお見通し ◆

今月の釈尊の言葉も、『ダンマパダ』(二三五)からの出典です。

「あなたはいまや枯葉のようなものである
閻魔王の獄卒があなたを待ち構えている
死出の門出に立ちながら
旅路の資糧もない」

今月の言葉は、標語にするには、少しインパクトが強いかもしれませんが。

閻魔王は、ご存知、^{めいかい}冥界の王として死者の生前の罪を裁く王。冥界(または冥土)とは、死後に亡者が趣くとされている架空の世界のことをいいます。冥界が架空とはいいながら、死後の世界をイメージできない私たちにとって、死後の世界は、文字通り冥く、光のない、闇の中としかいいようがありません。閻魔は、もともと、インドで「ヤマ」と呼ばれた人間で最初の死者となり、死者が進む道を見いだしたものとされられています。当初、閻魔王の支配する冥界は、素晴らしい楽園で、長生きをした人が、「ヤマ」の国に趣き、祖先と



今月のブツダの言葉

閻魔さまの番人たちが

あなたのお越しを待っている



もにあるのは幸せだと思われていました。しかし、時代が進むにつれて、閻魔王は、死者の靈魂を縛り、悪行をなしたものを裁き、自らの住処に連行する恐るべき王となりました。閻魔帳をもって、生前の人々の悪行を裁く閻魔さまのイメージは、今でも多くの人に恐れられています。

◆ そのまま助ける阿弥陀様 ◆

冥い世界の苦しみ。実は、老院が亡くなる前の状況そのものでした。毎日、「痛い、息苦しい」と繰り返し、その合間に襲ってくる

若院のテーマカット NO.16



譚妄が作り上げる、目のつり上がった鬼の形相。ベットを叩いたり、大きな声を上げたりして、地獄の獄卒と戦っていたのか、目を開けると、「ここは地獄か？」

と何度も聞かれました。

そんなとき、ふと思いついたのは、^②香樹院徳龍師の逸話。

美濃の国で、聞法のご縁の深い信者だったある老女が、死に臨んで、地獄に近づいたと苦しんで、泣いて娘に助けを懇願しました。娘は、何とも致し方なく、急いで当時京都で名を馳せていた徳龍師のもとを訪ねました。

徳龍師は、静かに娘の話の聞くと、娘から教示を請われたので、「自分が勝手に墮ちるといふなら仕方がない。残念ながら、地獄へやってしまえ」

①【冥界】

死後赴くべき世界の一つ。冥いところという意味で、冥途、冥府、陰府などともいう。仏教では、三悪道（地獄、餓鬼、畜生）のことをさす。一般的には、地獄のみをさすことが多い。

②【香樹院徳龍】

安永元年（一七七二）～安政五年（一八五八）。越後国蒲原郡水原・無為信寺の次男として生まれ、後

と。娘は、地獄からの助けを求めたのに、また地獄に突き落とされたような気持ちになって、泣き叫び帰ろうとしたところ、再び徳龍師が、「凡夫の身だから、地獄へ墮ちるとは当たり前だ。その地獄へ墮ちるものをそのまますけるとおっしゃっているのが、阿弥陀様の勅命。それでも、地獄へ行くのか」と続けました。

娘は、立ち所に阿弥陀様のお慈悲の深さが身に染みて分かり、御礼して急ぎ帰り、母親に告げ、親子して心から慶んだといえます。

苦しむ老院の枕元にあつて、やはりかけられた最大の言葉は、「一緒に阿弥陀様に詣ろう」でした。こうして、苦しむ老院を見て苦しむ自分も、阿弥陀様のお心に慰められたように思います。

に住職となる。京都で、東本願寺における一般僧侶の教育機関である、「学寮」の第十代講師に任命される。第五代講師にあたる香月院深助の弟子で、生涯独身を貫いた。江戸期の識者の間では、「学識は香月院、徳行は香樹院」とするのが一般的なほど、大谷派では著名な僧侶である。現在では、『香樹院語録』を見ることで、徳龍師の人となり分かる。

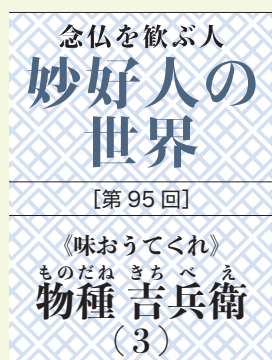


若院の成長日記
Growth Diary

《第三回 自粛警察》

「仏教と人権」という講義で、「コロナ禍における自粛警察」というテーマを取り扱いました。やや過激にも思える自粛警察ですが、こうあるほうが正しいという正義感が彼らを動かしているようです。

では正義とは何でしょうか。先生は「念仏には無義をもつて義とす」という歎異抄の一節が真宗における正義の理解の手掛かりになると教えてくれました。「義」は、はからい、正しいありかたという意味もあるそうです。



《吉兵衛のつまづき》

堺の妙好人・物種吉兵衛。吉兵衛の家は、「くすり」さんという屋号をもつ裕福な農家で、利兵衛という父親の一人息子として、少しわがままに育ちました。

吉兵衛が二十三、四歳のころ、吉兵衛は、近くの富木という村のお八重という一人娘と恋愛関係となり、子供を身籠もりました。当時、農家の一人息子と一人娘との結婚は、どちらかの家に大きな負担がかかり、ほとんどの場合許されることが多

かったといえます。吉兵衛とお八重も、互いの親や親族から激しい反発を受け、ふたりの間は引き裂かれ、ついには別れることとなってしまいました。

その後、お八重のもとで子供は無事出産し、すくすくと育ったそうですが、吉兵衛のお八重と子供に対する罪の意識は、ますます深まっています。吉兵衛が、仏法に目覚め、仏法聴聞を始めたのは、二十五歳ごろからだったといいますが、彼自身のやり場のない心の置き所を、仏法に求めたためだと思われれます。

吉兵衛は、それからというもの、実家のある浜尾村が村全体で信仰していた、浄土真宗の教えを熱心に聴聞し、生涯仏法を求め続け、感謝の念仏に生きる人生を送ることになりました。

子と共に 学びの場

長男は、この春、コロナ禍の中、何とか大学を卒業させていただき、四月からは、名古屋の同朋大学で仏教を学んでいます。何しろ、高校からずっと理系で、文系科目は大の苦手という彼です。初めてのお仏教の勉強は大変苦戦しているようです。

今まで、お勤めや作法の稽古は、老院からつけてもらうことにしていたので、「こんなとき、おじいちゃんがいたら、きっと喜んで手ほどきをしてくれただろうに……」

と考え、長男が卒業して寺に帰ってくるのを心待ちにしていた、老院の姿が浮かんできます。

決して思い通りに行かなかった老院の最期の日々でしたが、呑気な長男が進んで介護を手伝ってくれたことは、老院が身をもって学びの場を与えたおかげだったと感謝する日々です。

佳帆子
ようやく学校再開。でも毎朝眠いよ。

前住職本葬(告別式) 日程

7月3日(金) 場所・順慶寺/受付・山門横受付テント(午前9時~)

午後 1時30分~ 本葬
於 本堂(関係者)・境内特設テント(一般)



※本葬では、一般参詣の方は、三密をさけるため、境内特設テントにてお参りしていただきます。暑くて辛くなった方は、遠慮せず庫裏にてお休みください。
※飲み水は境内に臨時に設置される給水所にてお願いします。
※一般焼香は、本堂向拝にて行います。
※駐車は刈谷市総合運動公園駐車場(地図参照)となります。運動公園からは、12時30分より随時マイクロバスを運行させますので、マイクロバスに乗り換えて、御会葬ください。

午後 2時30分終了

※当日、三密を避けるため、午前中にもお別れの読経を上げます。

- 午前 9時30分~ 第一回読経 於 本堂
午前 10時~ 第二回読経 於 本堂
午前 10時30分~ 第三回読経 於 本堂
午前 11時~ 第四回読経 於 本堂
午前 11時30分~ 第五回読経 於 本堂

※読経開始15分前までに受付を済まして、境内特設テントにお控えください。毎回五十名様までを限度として本堂にご案内いたします。
※午前の駐車は順慶寺駐車場へどうぞ。ただし、本葬にお参りされる方は、午後より車を運動公園に移動していただきます。

編集部短信

◆老院七七日法要勤まるー五月十七日に老院が亡くなってから、毎土曜午後七時より、順慶寺本堂に隣寺ニヶ寺を導師として迎え、七七日法要を役員と寺族で勤めた。
◆老院本葬の清掃に三十人ー六月二十五日、老院の本葬を前に、清掃がなされた。奉仕に集まった三十人は、口々に老院の想い出を語りながらの奉仕となった。
◆水舎の湧水七月一日より再開ーコロナ対策として中止していた水舎の水揚げを、老院の本葬を前に、七月より再開する予定。

編集雑記

老院が亡くなって、はやひと月。生前、老院をお夕事に連れて車椅子を押し、導師をする老院の手助けをした若院を、このところ毎晩六時からのお夕事に導師をさせています。そのとき何故か、若院に老院の姿を重ね合わせて、妙な安堵感を覚えています(住)。
.....
数か月間のコロナのステイホームで生活リズムが崩れています。寝る時間と起きる時間が早かったり遅かったりしています。大学再開を期に生活リズムを取り戻せるよう努めたいです(若)。

本葬終了後
本堂の中陰荘敷片付け

7月3日に、老院の本葬が執行されますが、本葬終了後、引き続き親族・役員により、満中陰法要が勤められることになっています。
満中陰法要が終わりますと、七七

その後、本堂の中陰荘敷は廃止し、本堂内は通常の荘敷に戻ります。
日の間本堂南余間に安置してあった中陰壇を片付け、老院の遺骨は、境内にある、順慶寺境内にある納骨堂に移動(寺族は墓を持たないため)します。

6月度護寺会物故者

- 常照院釋尼妙琴
6月5日寂 杉浦コトミ(90)
高浜市 杉浦裕子様の母
普薫院釋尼妙鈴
6月7日寂 森 スズ(101)
一里山組 森忠和様の母
寂靜院釋尼清良
6月13日寂 池田光良子(95)
今川東組 池田光様の母
三名の順慶寺護寺会員の
方が生前の役割を終えられ、浄土におかえりになられました。合掌





7月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	水	花立て	
2	木	本葬準備	木-1
3	金	前住職本葬(13:30、順慶寺)	
4	土		
5	日		
6	月		
7	火		
8	水		
9	木		木-2
10	金	定例責役総代会(19:00、順慶寺)	
11	土		
12	日		
13	月		
14	火		
15	水		
16	木		木-3
17	金		
18	土		
19	日		
20	月		
21	火		
22	水		
23	木		木-4
24	金		
25	土		
26	日		
27	月		
28	火	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺)	
29	水		
30	木		
31	金		

↓
7月の責役総代会の判断により、順慶寺における新型コロナによる活動自粛を順次緩和させる場合があります。詳しくは各会ごとに役員からなされる連絡をお待ちください。

7月行事内容 詳細

前住職本葬

7月3日(金)

午後1時半〜 順慶寺

さる、五月十七日に逝去した順慶寺第二十世住職・定寛院釋良裕の本葬を執り行います。日程の詳細につきましては、前頁をご覧になってください。なお、当日、三密を避けるため、午前九時三十分より、お別れのお経が三十分おきに五回あります。本葬に都合が付かない方は、こちらでもお焼香することができます。

定例責役総代会

7月10日(金)

午後7時〜 順慶寺玄關

年二回実施される、責役総代会の第一回目。通常、この会で、順慶寺によって運営している事業の会計報告がなされます。護学会からは、七月三日に執行される老院本葬の会計を含んだ、会計報告がなされる予定です。また、今回は、新型コロナウイルス拡大による、順慶寺における諸活動の自粛を、下半期に向けて緩和するかどうかを検討します。総代会の決定を受けて、再開できる活動については始動させます。

おしらせ

●前住職本葬の駐車について

七月三日の前住職の本葬での駐車は、一般参詣の皆様は、基本的に刈谷市運動公園駐車場となります。時間に余裕をもって御会葬ください。

また、午前中にお参り下さる皆様は順慶寺駐車場が使えますが、参詣者の集中により、出入りする車でごった返すことが予想されます。混雑時、スムーズに駐車ができるよう駐車場の制限を行う可能性があります。

●本葬・庫裏休憩所について

前住職本葬の際、熱中症対策として、クーラーの効いた休憩所を庫裏に設置します。

●御命日自粛解除について

御命日法要を七月二十八日午前七時より通常開催いたします。

じゅんこのときめき歳時記

土用の丑

六月からは梅雨の季節になりました。毎日、曇りか雨なので気分が上向きませんが、元氣です。

六月の終わりには夏至になって、太陽が一番長く出ているそうですが、もし晴れたら、暑くて日焼けしそうで大変ですね。今年は、新型コロナウイルスの関係で、マスクを着けて外出しなくてはならないのでなおさらです。やはり、梅雨空の恵みもあります。

昔から初バテには、鰻が一番というので、土用の丑には、鰻を食べる習慣があります。鰻には、ビタミンAやビタミンBが豊富に含まれていて、疲労回復にもってこいだから

と言われます。

おじいちゃんが、亡くなる前、鰻が食べたいと言っていたので、今年は、おじいちゃんにお供えをしなくては、と思っています。

まだ逃げる

つもりの土用鰻かな

伊藤伊那男

